

生涯学習

No.524

かおり高い

文化のまち

小さな声であいさつ



教育長職務代理 今井 仁志

教育委員として、授業参観等で町内の小中学校四校へお伺いする機会が多くあります。

ある日、授業参観を終えて廊下を歩いてみると、後ろから二、三年生くらいの小さな女の子が近づいて来て、緊張気味に小さな声で

「こんにちは」と声をかけてきました。

『ああ、この娘は、授業参観に来てくれる人に声をかけたかったのだなあ』と、感じたので、顔を寄せてその娘よりももっと小さな声で、

「こんにちは。ありがとう」

と返事をする、ニコッと微笑んで走っていききました。大変嬉しい気持ちになりました。

私たちは、大きな声であいさつするのがよいといえます。例えば、「〇〇校の生徒さんのあいさつはいつも大きな声で素晴らしいですね」などと、評価をします。これは、まったくもってその通りです。

でもその一方で、あいさつは、会話の始まりであり、会話の目的は気持ちを伝えることだと考えれば、この娘のあいさつは、声は小さいけれど、かなり『立派なあいさつ』だなあと思っ

しました。

子どもに対するとき、あいさつ一つにしても「声が大きい方がいい」だけでなく、いろいろな評価の物差しを、大人は持たないといけないなあと思えます。

「勇気を出してあいさつした」「あいさつ後の笑みが相手を幸せにした」

「『こんにちは』に心がこもっていた」・・・こんな物差しをこの娘からは教えてもらったかも知れません。多くの物差しをいつも持ち歩いていて、子どもを認めてあげられたらいいのになあと思います。

山本五十六いそく訓に「やってみて、言ってみせて、させてみせて、ほめてやらねば、人は動かじ」とありますが、このほめるということは実は難しいです。でも、大人がいろいろな物差しを持って子どもの頑張りを探してあげ

られれば、ほめることは難しくなくなります。

学校を回っていて出会うあいさつには、「誰？何しに来たの」なんていうのもよくあります。

どうやらこの子は、自意識が育っているようですし、認めて欲しいと思っているようです。ちょっと見ていると、ノートに何か書いて、チラリとこちらを見ます。ウンと頷いて見せるだけで笑顔になります。

こんな笑顔を引き出すことが、学校へ行く楽しみとなっていく。



PTA活動を通じて



下諏訪中学校PTA会長

河西 一智

昨年一月、下諏訪中学校PTA会長を引き受けることになりましたが、PTA会長は何をしらいいの？という状況からスタートしました。こちらの準備が進んだことを覚えています。後で、PTA活動とは、保護者と教職員による協働活動であ



緑濃い山道を黙々と

ると知りました。実際に活動してみても分かったことは、先生たちは、学校生活以外にもPTA活動にも参加し、子どもたちとの関係や学校運営がスムーズに行われるよう、多大な時間を割いていることが分かりました。各家庭でも、できることから参加すれば、もつと良いPTA活動になるのでは、と感じています。

さて、下諏訪町には、二つのコミュニティスクール（以下CS）があるのをご存じでしょうか。昨年はなぎがまCSにおいて、八ヶ岳登山引率ボランティアの募集が行われ、私を含めて二名でしたが、地域住民代表として、学校登山に参加して参りました。

初日は天気が崩れ、硫黄岳へ



根石岳山頂近くにてご来光を待つ

の道中、山頂でも大自然の厳しさを感ずることとなりました。翌日の天気も心配されましたが、深夜宿を出発し、御来光を目指し、暗闇の中をもくもくと登りました。引率の先生方のお話では、御来光はここ何年も見ることができていないとのこと。

根石岳付近は、風の通り道で、雲が次から次へと流れ、とても寒かったです。覚えていたことを覚えています。昨日の天候や、子どもたちの頑張りに、何とか見せてやりたいという願いは通じ、



ご来光を背にして

何年か振りの御来光に出会うことができました。この登山を通じ、助け合いの精神、先生と生徒の関係等、普段の学校生活も想像でき、安心しました。このような地域住民と子どもたちとの関わりは、子どもたちだけでなく、大人も成長できる良い機会になると思います。

今年は、自分ができそうなことを可能な範囲で子どもたちと交わり、共に成長することが目標になりそうです。最後に、子どもは町の宝物、皆で大事に育てていきましょう。

地域貢献出来る自分に



西赤砂 三簾 将哉
みすい まさや

私には成人になった実感がまだありません。今の自分はものごとの善悪の判断、人間関係づくりなどは自分の中に判断基準があり、精神的自律ができています。

反面、現在大学に通い、経済的自立ができていないことから、成人になった実感がわかないのだと思います。

私の友人も含め多くの人が学びたいこと、叶えたい夢を見つけ、下諏訪町から他の地域へ行きました。生まれ育った町以外の場所で生活し、様々なことを体験することで自分の考え方を豊かにし、視野を広げてくれる良い機会だと思います。

しかし、私には別の地域へ行き、そこで生活するイメージがわかりません。それはこの町が山に囲まれ、自然と調和した生活を送り、先人たちから受け継いだ文化と伝統をしっかり守りつつ、精密工業での地位を確立しているすばらしい町だからです。そして私は、これからもこの町で生活していくものだと思います。

この町で生活していく中で、これまで多くの下諏訪町の方、そして下諏訪という町に支えられてきたことへの恩を返したいと考えています。この町のために尽力し貢献されてきた高齢者、私たちの後に続く子どもたち、すべての年齢、立場の方に思いやりと誠意を持って接していくことを二十歳の誓いしたいと思います。

成人を迎えて



南四王 山澤 美咲
みなみ やまざき

今年、二十歳という節目を迎え、晴れて新成人となりました。これまで自分を守り、支えてくれたすべての方々に感謝し、社会人としての自覚を持った行動を心掛けていきたいです。

現在私は、東京の大学に進学し、一人暮らしをしています。最初は、憧れの東京で自由な生活が送れることに胸を躍らせていましたが、実際に一人での生活を始めると、自分が想像していた以上に辛く、何度も挫けそうになりました。そんな時、自分の背中を押し、励ましてくれたのは、離れた地元で暮らす家族の存在でした。今まで、自分がどれだけ恵まれた環境で育てられたのかを実感すると同時に、改めて家族の大切さについて考えることができました。これからは自分が家族の支えになれるよう、精一杯努力していきたいと思っています。

私が私として生きる人生は、たった一度きりです。「一期一会」という四字熟語があるように、一生に一度の出会いを大切に、自分の人生に悔いが残らないよう、何事も積極的に挑戦していきたいです。これから社会人として生きていくためには、自分の進むべき道を自分で選び、その選択に自信と責任を持たなければなりません。今後の日本の未来を担う者の一人として、人のため、社会のために活躍できるような人間に成長していきたいと思っています。

向上心を持つこと



星が丘 高木 大揮^{ひろき}

私は、今年二十歳になります。それと同時に社会人三年目を迎えます。仕事にも慣れてきて、気が緩んでくる時期だと思えます。なので、会社に入った頃のことを思い出し、初心に戻って気持ちを引き締めて、仕事に取り組んでいきたいです。

そしてこれから新しく覚える仕事もあると思います。メモを取ったりして何度も聞かないようにしたり、やりにくい作業などは自分から上司に相談をして、変えたりできないかを聞いて、作業をやりやすくして、工程を削減し会社に貢献していきたいです。

それから自分の工程内での活動では、自分から率先してリーダーなどをやっていきたいと思えます。検定もあるので、積極的に受けていきたいです。高校の時も検定はありましたが、自分の検定を合格するという意識が足りず、合格した検定は少ないです。ですがこれから先、まだまだたくさん検定を受けていくので、高校の時と同じ意識で受験をしていっても検定を受ける意味がありません。なので、受けるからには一発で合格できるように、毎日練習や勉強をしていきたいです。

これから新人も入ってきて、教わる立場から教える立場に変わってくるので、仕事のことだけでなく、他にもいろいろ教えていきたいです。

これらを毎日意識して、検定や仕事に取り組み、新人に負けないうよう、日々努力していきたいです。

踏み出す



社 本多 桜

この度成人を迎えるにあたり、僅か二十年の私の人生も、家族をはじめとした多くの人の支えがあつてこそのものであると実感する。現在は大学進学を機に関東で独り暮らしをしている。親元を離れ、初めて気がついたことがある。それは、私は自分の想像していた以上に、生まれ育ったこの場所が大好きであるということだ。東京出身の友人が夜空を見上げて綺麗だと言っても、私は実家の玄関前から見る夜空の方が断然美しいと思うし、地元の話題になるとつい信州自慢をしてしまう。きっと下諏訪にいたままでは気がつけなかっただろう。

私は大学で言語学を専攻し、中国語の文法構造や語法について学んでいる。私は中国語という言語と向き合っていく上で、単に言葉だけを学ぶのではなく、言語の背景にある歴史や文化を学ぶことも重要だと感じ、昨春中国の地に足を踏み入れ、約一ヶ月間そこで暮らした。とても短い期間ではあったが、私の中国語や中国に対する姿勢は大きく変わった。日本から見ると中国と中国から見ると中国はまるで違っていて、日本の地から踏み出して初めてわかることも多くあった。これは、先に述べた話と通ずるものがあると思う。

その経験を踏まえ、今秋から長期での海外留学を決意した。両親には心配をかけさせることになる。けれど、私にとって家族は港だ。必ず大きな鯨を捕まえて帰ってくる。居心地の良い場所では人は成長できない。もつと遠くへ足を踏み出し、学び続けていきたい。

我が家の年末年始 昔と今



萩倉 丸野 幸子

かれこれ三、四十年前になる
でしょうか。当時は子育て真っ
最中。祖母が営んでいた農協の
手伝いをしていました。

十二月に入ると、越冬野菜（
長人参・長牛蒡^{ごぼう}・一斗缶入り
食油・大袋のちり紙他の売り出
し・酒十本・ケース売りビール
の注文取りと配達。一日中、子
どもをおぶいながら奮闘してい
ました。祖母はこの時期決まっ
て、障子の張り替え。祖父は、
二十九・三十日には、外の仮設
の調理場で、周り中鱗^{うろこ}だらけに
して、鯉を割いていました。鍋
を持って買いに来る人の列がで
きるほどで、当時のお正月料理
の豪華な一品でした。外は生臭
く、家の中は鍋の音と熱気でム
ンムン。良い匂いが漂っていま

した。三十一日三時で店じまい。
今年最後の掃除機の音が消える
五時頃になると、仏様に灯がと
もって静寂さが戻り、やっと年
の終わりを感^{かん}じ、新年を迎える
心の準備ができたように思いま
した。

元旦、よそ行きの服に身を包
み、祖父母への新年の挨拶です。
おせちを食べながら、賀状に目
を通し、お正月気分^{お正月気分}に浸ってい
るのも束の間、二日の全員集合
に合わせて、おもてなし料理の
下ごしらえです。一時は、祖父
母の温かい配慮から、私の兄弟
家族まで呼んでいただいたので、
総勢二十人くらいの時もありま
した。お年玉の応酬。子どもた
ちには格好の収入源。にぎやか
で楽しいお正月でしたが、無我

夢中でした。

現在は、夫と私二人家族。店
も閉じ、のんびりと年末を過ご
しています。

十二月に入ると、早め早めの
大掃除。クリスマスの頃はお餅
つきを済ませ、売り出しの広告
を見ては、買い出し・調理して
冷凍。文明の力を味方に、作り
置きに心がけています。

暮れは、つつましく、
ひっそりと二人だけの
年越しで一年が終わら
ります。

元旦。二人だけでニ
ヤニヤしながら新年の
挨拶。夫は部落の挨拶
会に。私はのんびりと



兄さんをお手本にして

テレビ観戦。そうこうしている
うちに、娘たち家族が次々にや
つて来て、新年会の始まりです。
全員で挨拶を済ませると、待つ
てましたと夫がたててくれる、
お抹茶と生菓子で我が家の新年
会は始まるのです。五年生を頭
に、二歳半位までの五人の孫た
ちで、家の中はてんやわんや。

ちなみに昨年は、大人子ども
が入り混じった卓球大会で大盛
り上がりでした。唯一、長男家
族が仕事の都合で来られなかつ
たことが残念でした。

人と人とのつながりが、希薄
になっていく近年、せめて盆・
正月は皆が集い、これからもず
っと仲良く賑やかなお正月が過
ごせますように・・・と願うば
かりです。



お正月用玄関飾りの
つるしびなと扇

★秋宮リンク「氷上祭」のお知らせ★



日時：平成30年1月28日（日）午前9：00～午前12：00

場所：秋宮スケートリンク（悪天候中止）

そり引きゲーム、氷上ボウリング、障害物競走など楽しい企画が盛りだくさん！

大好評の下駄スケート体験も実施します😊

参加費無料、事前申し込み不要です。当日、秋宮スケートリンクにお越し下さい。

※会場の駐車場は駐車台数に限りがございますので、出来る限り徒歩でお越し下さい。

問い合わせ先 下諏訪体育館（27-1455） 秋宮スケートリンク（28-7555）



☆☆そり引きゲーム☆



☆☆氷上ボウリング☆



☆☆下駄スケート体験☆

☆☆☆ 図書館だより ☆☆☆

音訳ボランティアグループ「やまびこの会」小玉さん、受賞される

下諏訪町立図書館を拠点に、視覚障害者のための音訳活動を続けているボランティアグループ「やまびこの会」。今回、会の中で長年「校正」（音訳の正誤確認の仕事）に従事されていた小玉静子さんが、鉄道弘済会より「朗読録音奉仕者感謝行事」関東甲信越地区表彰を受賞されました。おめでとうございます。小玉さんには、これからも音訳活動の発展のために、一層のご活躍を願っています。



※音訳ボランティアの他にも、図書館を拠点に様々な団体が活動をしています。詳細についてご興味がおありの方は図書館までお問い合わせください。 下諏訪町立図書館 電話27-5555

ほのぼの まちかどで

「ほのぼの」というテーマで依頼をいただき、私自身、「ほのぼの」であると感じた思い出を書かせていただきます。少し悲しいお話ではありますが、今の私を形作る大事な思い出ですので、ご容赦頂ければ幸いです。

昨年十二月に実家の愛犬が亡くなりました。肝臓の病気を患い、十三歳で天国へ旅立ちました。若い頃から寒がりです、家中の温かい場所を探しては陣取っていました。ある時はこたつ、ある時は人間の布団：：そんな中で一番のお気に入り、家族の膝の上でした。床に座って本を読んでいようものならめざとく見つけ、小さな体を活かして潜り込み、あつという間に占領します。家族全員、「これではトイレにも行けないよ」と苦笑いしました。でも、愛犬が与えてくれる温もりと、そこに流れる穏やかな時間は、何にも替えられない「宝物」でした。

愛犬が居なくなつて一年が経ちます。寒くなるにつれて、膝に潜り込んでくる温かさがなくなると、ふと実感します。しかし、こうして思い出す度に、足の間に柔らかな毛が触れてくるような感覚を覚えます。おそらく錯覚なのでしょうが、「また抱っこして欲しいのかな」と、私はほのぼのとした気持ちになるのです。

（上野 詩織）